

1. 授業の概要(ねらい)

「中国史のスタンダードを学ぶ」(近現代史)

世界史のなかでも大きな比重を占める中国史を、高校世界史教科書に沿って学びなおします。入試対策の暗記から脱し、各時代の特徴や中国社会の本質が理解できるように、また日本とのかかわりや、世界に占める中国の重要性が理解できるように教えたいと思っています。中国史が苦手な人、入試で世界史を受験しなかった人も安心して受講してください。また中国史の基本がわかっている人でも、通史の学びなおしには得られるものがあるでしょう。

2. 授業の到達目標

1. 中国の通史に対して、基礎的な理解が持てるようになる。
2. 中国史の各時代の特徴、社会の本質が理解できるようになる。
3. 日本とのかかわり、世界における中国のステイタスについて理解できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

課題への解答(80%)、および期限厳守の度合い(10%)、受講態度(含出席状況)(10%)

4. 教科書・参考文献

教科書

木村靖二・岸本美緒・小松久男 『詳説 世界史 世界史B』
山川出版社

「世界の歴史」編集委員会 ※上記を所持していない履修者は、
『新 もういちど読む山川世界史』

山川出版社

参考文献

濫谷由里 『<軍>の中国史』 講談社現代新書
全国歴史教育研究協議会 『世界史用語集』 山川出版社

5. 準備学習の内容

「各回の授業内容」に示された、テキストの該当部分をあらかじめ読んでおくこと。

ノートを取り終えたら放置せず、次回までに内容を整理しておくこと。

書写が間に合わなかった漢字は、自分で調べてノートしておくこと。

6. その他履修上の注意事項

※秋期からの履修者へ 春期の学習内容は、テキストで自習しておいてください。中華文明の誕生からおおむね明代末期(17C初頭)までの部分をおおむね読んでおけば、秋期の授業は理解できると思います。

※春期からの継続履修者へ 春期の学習内容は頭に入っているものとして、秋期以降は続きを話します。忘れてしまった人や自信のない人は、「秋期からの履修者へ」に書いたのと同様の部分を復習しておいてください。

7. 授業内容

【第1回】 秋期新規履修者向けガイダンス、および春期内容のふりかえり(9月24日、対面授業)

【第2回】 清朝の全盛(10月1日、対面授業)

『詳』pp.187-189、『新』pp.81-84

【第3回】 清代の社会と文化(10月8日、対面授業)

『詳』pp.191-192、『新』pp.84-86

【第4回】 衰退の兆しとアヘン戦争(10月22日、対面授業)

『詳』pp.295-296、『新』pp.204-206

【第5回】 アロー戦争と北京条約、ロシアのリベンジ(10月29日、対面授業)

『詳』p.297、『新』pp.206-207,pp.195-6

【第6回】 太平天国の乱(11月5日、対面授業)

『詳』pp.297-299、『新』207-208

【第7回】 朝貢秩序の崩壊(11月12日、対面授業)

『詳』pp.300-301、『新』pp.209-212

【第8回】 戊戌の変法と政変、義和団事件(11月19日、対面授業)

『詳』pp.321-323、『新』pp.224-227

【第9回】 日露戦争と辛亥革命(11月26日、対面授業)

『詳』pp.323-326、『新』pp.230-232,pp.227-228

【第10回】 中華民国前半期の政治・文化と第一次世界大戦(12月3日、対面授業)

『詳』p.326,pp.346-347、『新』p.229,239

【第11回】 五四運動と第一次国共合作(12月10日、対面授業)

『詳』pp.347-349、『新』p.249

【第12回】 第二次国共合作と日中戦争(12月17日、対面授業)

『詳』p.350,pp.358-360、『新』pp.260-261

【第13回】 中華人民共和国の成立と戦後世界における中国(2022年1月7日、対面授業)

『詳』p.376,p.379,p.384、『新』pp.274-6

【第14回】 中国の激動と国際関係の変化(1月8日、LMS配信)

『詳』pp.390-2,pp.404-5、『新』p.278,pp.286-7,pp.291-3

【第15回】 中国史を学ぶ意義(1月14日、対面授業)